

ぶんぱく職員意見交換会

日時：2024（令和6）年 11 月 25 日(月) 9 時～12 時

参加者：15 人（市 7 人、指定管理者 8 人）

進行：源由理子氏（明治大学専任教授）

佐久間大輔氏（大阪市立自然史博物館学芸課長・ぶんぱくあり方検討会委員）

開催目的：ぶんぱくあり方検討会で 3 年後のぶんぱくがどのようにあるのいいか、話し合いをしています。ぶんぱくあり方検討会の委員で話し合った結果を実行するのはぶんぱくの職員です。ぶんぱくの職員がぶんぱくがどうあったらいいか考えているかを知るために、意見交換会を開催します。

実施内容

Step 1 ぶんぱくがめざすこと アウトカムを考える

①誰が、どのような状態になればぶんぱくの設置目的が達成できていると思いますか？

②誰が、どうすれば、ぶんぱくの設置目的が達成できる状態になりますか？

①をミドリの付箋に書いて模造紙に貼って共有。似ているものをグループ分け

②をキイロの付箋に書いて模造紙に貼って共有。①とのつながりと似ているものでグループ分けした結果の詳細は別紙 Step1 のとおりです。

参加者の意見は、大きく 3 つにわけられました。

「ぶんぱくが市民にとって身近な存在になる」「子どもたちが明石の歴史や文化を理解し、自発的に知ろう、学ぼうとする」「職員が誇りをもってはたらける環境が整う」の 3 つがぶんぱくの設置目的を達成するために、大事なことと考えました。

Step 2 目的を達成する上での課題と対応策の検討

Step 1 で考えた、ぶんぱくの設置目的を達成するために、大事な 3 つのことについて、グループにわかれて、大事なことを達成するための課題と対応策を考えました。

「無関心な人にも身近な存在になる（ぶんぱくが市民にとって身近な存在になる）」では、①博物館を知らない人、無関心な人への情報の届け方、②展示方法、③来館者・利用者が固定化

「市民が文化を深く知る（子どもたちが明石の歴史や文化を理解し、自発的に知ろう、学ぼうとする）」では、①常設展示室の展示内容・環境、②ロビー・館内の動線がわかりにくい、③企画展の展示内容（難易度、ターゲットの偏り）、④博学連携ができていない、「職員（人材）（職員が誇りをもってはたらける環境が整う）」では、①組織体制、②職員待遇の課題と対応策を発表しました。詳細は別紙 Step2 のとおりです。

ぶんぱく 職員意見交換会に参加して 佐久間大輔

- こめられたもう一つの目的
職員が当事者であるという意識を、確認する・引き出す
→たくさんの意見が積極的に出されました。他の人の意見に自分の意見を寄り添わせていく姿勢も
- 皆が思っていることを可視化する
→初めてこうした意見交換をして思っていることを話せた、聞いた、楽しかったという声が多数

出てきた意見と出てこなかった意見

- 「子ども」「身近」はやはりかなりキーワードになっている。
→広げていきたいという強い意識
- 組織のコミュニケーション不全、は出しづらい話題ながらも皆強い課題感を持っていた。課題意識を持っていたも、改善ができない、制度・体制に課題。
- 資料の管理や研究に関わるものは少なめ
→資料・研究に意識が低い、というのではなく集団の構成による。学芸員だけ、にするとでやすい。なのでこうした要素に関する意見は後で補う必要がある。
(それでもデジタルアーカイブや研究紀要の話がしっかり出ている)

感じた可能性

- ポジティブな議論
一つ間違えれば、愚痴大会になりがちだが、皆やりたいこと、やるべきなのに出来てなくてということがたくさんある。改善したい意識が強い。
- スムーズなリーダーシップ
それぞれのサブグループに分かれて議論を始めたときにも様々なスタイルで自分たちの意見をまとめていった。年功とか職位でなく、スムーズに報告役、議論まとめ役の分担ができていた。
- ワークモデルとしての天文科学館
発言の端々に時折名前が上がっていた。身近にロールモデルがあることは大変重要。

状況



成果 2 続き

- 異職種・異なる立場での意見交換に可能性を見いだせたことは大きいのではないか



Step1 ★は現在実施していない内容、㊦は少しやっている内容

①どのような状態になればぶんぱくの設置目的が達成できていると思いますか？	②誰が、どうすれば、ぶんぱくの設置目的が達成できる状態になりますか？
無関心な人が博物館に要求をもつようになる 市民が明石のことをもっと知ろうとする 市民にとって博物館が 身近 な存在になる	ギャラリーの貸館、★貸館（もっと市民に貸したい） ★出張展示（もっと）、まず、ぶんぱくをしってもらうアウトリーチ活動を行う（学校・図書館）、★市民の方との交流会（市民から話を聞くイベント）、他者と出会うクリスマスマーケットなどの事業、より多くの人に博物館を知ってもらうための広報活動 ㊦絵本や地元作家等市民にとって身近な美術作品を扱った展覧会をする、利用者に親しみを持って対応する、笑顔でお客様をお迎えする、話をきちんと聞く、楽しく面白くお客さまと話す ★無料ゾーンを拡充して市民が気軽に訪れることが出来るハンズオン展示を行う
市民が明石に関する文化財を使用して経済活動ができる 市民が自分の課題を解決する 展示を観た人が好きと思えるものを増やして帰る 市民が歴史を知る事で自分の人生を大切に生きる 子ども たちが明石のまちを好きになる（誇りに思える）ようになる 市民が地元の伝統・文化に誇りをもつようになる 子ども が歴史好きになる 未来をになう 子ども たちが美術(絵画等)や歴史を自発的に知ろう、学ぼうとする	★デジタルアーカイブをつくる、レファレンス体制、ボランティア活動の充実、★ボランティアの再構築と新しい担い手の養成、明石にしながら他地域のことをする展示、偏らない分野の展示を開催する、歴史上の出来事を自分ごとにとらえられるような展示 博学連携（★小学校など一部しかやってない）、★教員への研修、出前授業、文化財とワークショップをかけあわせた体験プログラムで楽しみながら文化財にふれる、こどもが楽しめる展覧会を提供する 講演会や WS で明石の文化歴史を伝える、はじめての人、知らない人にもわかりやすい、楽しい体験をしてもらう

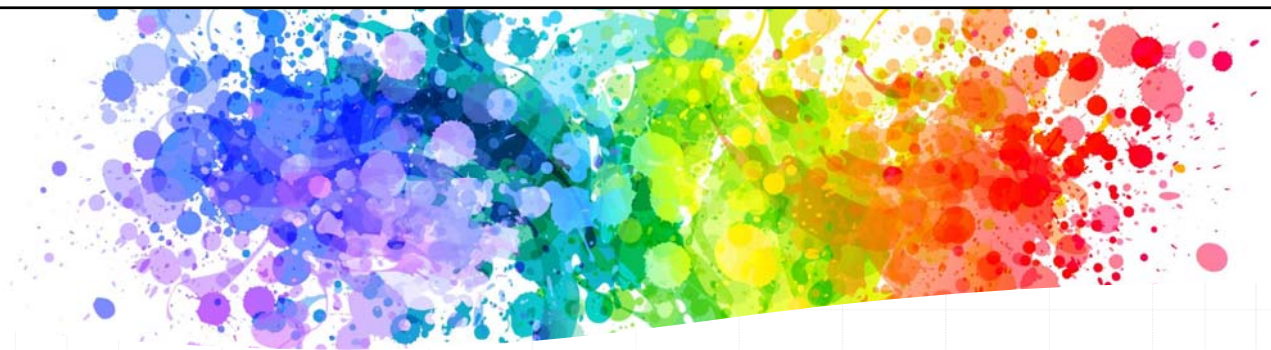
市民（特に 子ども たち）に知る楽しさを知ってほしい。わくわく目を輝かせた表情になる 大人が 子ども たちに歴史を伝えられるようになる	
職員 が誇りと責任を持って働く	★分野の確立（今は広すぎる）、★紀要の復活、★職員の身分保障
市民（利用者）が幸せになる	（設置目的に直接つながるため番外とした）

Step2

テーマ	課 題	対 応 策
無 関 心 な 人 に も 身 近 な 存 在 に なる （ ぶん ぱ く が 市 民 に と っ て 身 近 な 存 在 に なる）	博物館の存在自体知らない 博物館にまず来ない	SNS の活用、出張展示・ワークショップ、アウトリーチで地道な売り込み、職員も身近に感じてもらう（グッズ開発の話とか）、広く関心の高いコンテンツとのコラボ
	無関心な人を知らない 博物館にそもそもどんな関心をもっているのかわからない 関心のポイントが多様？	博物館に求めるものを調査する、関わりを作っていく（出店、参加型調査）
	特定の団体の影響強い?? ファンが固定化している 同じ人が参加する（講演会など） 特別展のイメージが強すぎる 人寄せパンダがいなくなると何も残らない 企画（全ての事業）も同じような印象 世代により関心が異なる	参加方法など、ネットから情報を得る機会が多いが、それが得意でない人をどうするか 年にこの期間は初利用の団体を優先するといった貸館体制 来館してもらう手法を幅広く！展示、講演、ギャラリーでの発表、講座、情報提供、広報 新しい層の開拓（ボランティア、展示、イベント、いいところを残し変えていく）
	展示そのものに、展示という形式に興味がない モノから情報を得るのはコスパ、タイパが悪い？ 関心を持ってもらう方法、機会など	展示の楽しみ方を伝える（SNS?） 貸館の存在を知ってもらう、展示以外で楽しめることを打ち出す、展示をみなくてもくつろげる空間をつくる、無料スペースの活用（自習、図書、カフェ、こどもが作品を飾れる等）
	気軽に来れないイメージがあるのでは？ 世間的に博物館のイメージが特別なもの	小学生のうちから博物館に来る機会をつくる、新しいメディアでの新しい層への訴求、イメージを変えていく、個性をみがくか幅広く活動するか

テーマ	課 題	対 応 策
市民が文化を深く知る（子どもたちが明石の歴史や文化を理解し、自発的に知ろう、学ぼうとする）	①常設展示室の課題 子どもには難しいキャプション・展示 暗い→こわい印象？（子ども） 外国語がない、ハンズ・オンが少ない 情報が古い、常設展示室への動線がわかりにくい	音声ガイドの導入、2次元コード等の導入（解説、多言語）、有名人による音声ガイド（有料） 明るくする、展示品への3Dプリンターの活用、解説の更新がしやすい機器の導入、アカシゾウのレプリカを正面（布団太鼓付近）に置く
	②ロビー、館内の動線がわかりにくい ロビースペース（無料ゾーン）の活用ができていない 体験学習室に入っているか迷われる方がいる 館内案内がわかりにくい	ロビースペースの活用 ハンズ・オン展示など、無料でも楽しめる目をひく展示物を置く
	③企画展が抱える問題点（主にターゲットの偏り） （キャプションの）ルビだけでなく根本的なつくり方、難しすぎる？ 簡単すぎる？極端、展示によってターゲット層が限定され、一部の人は無関心	難しい内容の時にポイント的に子ども向けの解説を入れる、ターゲットをふり切る（子ども向、大人向）、ぶんぱくクイズ企画展版の作成、ぶんぱくたんけんクイズをもっと知ってもらう（知名度↑）広報に載せる？、子ども向けで楽しめる展示もある！と広報活動を行う
	④博学連携ができていない	夜間中学・高校やフリースクールへの出前 「教員のための博物館の日」の活用 幼稚園での出前授業（初めての博物館の入口）

テーマ	課 題	対 応 策
職員（人材）が誇りをもつてはたらく環境を整う）	会社と行政に板ばさみ… 市と指定管理者の連携がない、所属の違い、お互いを知る（業務内容、何をやっているか） 報連相の意味 組織がいっぱい（文化財など） PDCA サイクルがまわせていない 人員補充	市と指定管理者と一緒に業務をする 運営母体をひとつにする 市も開館日に出勤する 伝える場を設ける 分野（市史・文化財）をわけ PDCA をまわすための組織体制 作業や業務のための部屋が必要 業務の見直し（本当に必要か）
	文化財の知識や外国語に関する個人の研鑽、スキルアップ 研究成果の発表の場が少ない 人間関係のしがらみによる業務の固定化、特定の個人への業務の偏りによる弊害 職員数、正規化、待遇、人材育成等についての上層部の理解	多様性（多言語化等）への対応 紀要等の発行 業務を固定しない みんなができるように。



明石市立博物館 意見交換会

2024年11月25日

ファシリテーター：

源 由理子（明治大学公共政策大学院）

意見交換会の目的

- 今年の8月から「ぶんぱくあり方検討会」で3年後の「**ぶんぱくをどうしていくのがよいか**」を話し合っています。
- 「**ぶんぱくをどうしていくのがよいか**」を話し合うために、「ぶんぱくがこうなったらいいな」を知りたいです。
- 「ぶんぱくがこうなったらいいな」を基に意見交換をして「**ぶんぱくをどうしていくのがよいか**」の参考にします。

意見交換をより効果的に行うために

- 意見交換会はお互いを知る場です。「対話」（＝異なる見方があるからこそ成立する）の時間を楽しみましょう。
- 参加者は、異なる経験と意見を持つという意味で、**対等**です。
- 現場で文化行政、博物館運営に関わっている皆さんだからこそ見えてくる課題や、今後のあり方について、率直な意見を述べ合いましょう（**暗黙知の可視化**）。
- 「正しいひとつの答え」を見つける場ではありません。今後のぶんぱくのあり方の議論につながるような、建設的な意見交換をめざします。

3

意見交換会の流れ

内容

Step 1:
全体で、
ぶんぱくがめざすことの
確認

問いかけ

- ① ぶんぱくの目的の確認
- ② それに向けて、どんな活動が展開されているのだろうか／展開すべきなのだろうか

Step 2:
グループに分かれて、
課題と対応策の検討

《三つのグループに分かれて》

- ① 目的を達成するために、今、どんな難しいことがあるのか
- ② その難しさに挑戦するためにはどうすればいいだろうか

Step 3:
グループ発表と
ぶんぱくで大切な活動につ
いての意見交換

- ① 各グループごとの発表
- ② 今後のぶんぱくにとって、大切な活動は何だろうか

4

本日の流れ（一応の目安）

9:00～ 9:20	20分	導入：意見交換会の目的・本日の進め方についての説明
9:20～ 10:20	60分	Step 1: ぶんぱくがめざすことと、活動内容の確認
10:20～10:30	10分	《休憩》
10:30～11:10	40分	Step 2: 課題と対応策の検討（グループワーク）
11:10～11:50	40分	Step 3: グループ発表とぶんぱくで大切な活動についての意見交換
11:50～12:00	10分	まとめ

5

文化博物館の設置目的について

- ・「歴史、民俗等に対する市民の理解を深めるとともに、市民の文化の向上及び振興に資するため、本市に文化博物館を設置する」（明石市立文化博物館条例第1条）

（参考）明石文化芸術創生条例第1条

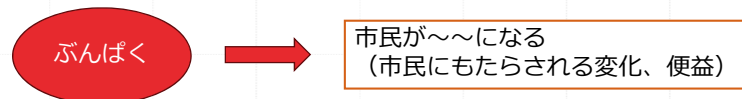
「この条例は、文化芸術に関する基本的な理念及び方向性を示すことにより、明石の特性や人々の個性をお尊重した文化芸術の振興を図り、もって心豊かでうるおいやすらぎのある市民生活と個性豊かで活力のある地域社会の実現及び地域を支えるひとづくりに寄与することを目的とする」

6

Step 1: ぶんぱくがめざすこと

市民って多様かも

- ぶんぱくの活動によって、市民はどんな便益を得ることができるのだろうか
➡「アウトカム」を考えてみましょう



- そのために、どのような活動を展開しているのだろうか／展開すべきなのだろうか
➡アウトカムを達成するために具体的な活動を確認してみましょう

7

Step2: 目的を達成する上での課題と対応策の検討

活動	活動を展開する上で難しいと感じていること、課題など（ミドリ）	その難しさに挑戦するためにはどうしたらいいか、対応策など（キイロ）
身近		
子ども・理解		
職員		

8

Step3:

グループ発表とぶんぱくで大切な活動について

- 各グループで話し合ったことを共有しましょう
- 共通している課題や対応策はあるでしょうか
- 今後のぶんぱくにとって、大切にすべき活動は何でしょうか

(参考)

ぶんぱく関係者ヒヤリング 2024 年 10 月 11 日～23 日

意見聴取者：ぶんぱく内で執務をしている職員（市文化・スポーツ室歴史文化財担当職員 14 人、委託業者 2 人）

学芸員、任期付事務員、文化財資料調査員、文化財資料整理員、嘱託専門員（市史編さん担当）等

（問いかけ）それぞれの業務をするなかで 困っていること こうなればいいな、と期待することを教えてください

【ビジョン】

・ぶんぱくが何をする博物館なのか、目指す方向性が明確になれば館全体でその方向性に向かって活動できる。

【組織体制・建物構造について】

- ・ぶんぱくの建物の中に存在する多種多様な人と機能が整理できると、意思決定、意思統一がしやすくなる。
- ・指定管理者学芸員の知見を市学芸業務にも活かすことができると、博物館活動が広がる。
- ・組織や人員体制など、資料調査・研究が継続できる体制になればよい。
- ・来館者との動線の交錯（エレベーターが 1 台のみ）や市事務室への来館者迷い込みなどを解消したい。
- ・専門職の多くが任期付の週 4 日勤務職員のため、週 5 日勤務になれば、調査研究や業務に必要な知識・技術の習得の時間が取れるのではないかな。
- ・特定の職員に業務が偏り、その人の指示がないと動けない組織になっている。
- ・各自が責任を持って展覧会を企画し、動く体制になるとよい。

【博物館活動について（資料の収集・保管、展示、調査・研究）】

- ・博物館資料の収集基準があれば、収集する資料が明確になり、ここがどういう博物館かはっきりしてくる。
- ・資料整理の体制（人員、機材、作業場所、収蔵場所、一時保管場所、燻蒸設備）やルールが整えば、資料整理が進む。
- ・資料の特性に応じた適切な環境で資料を保管できていない（資料種類ごとの温湿度管理、害虫やほこり対策）。
- ・資料収蔵スペースが足りない。
- ・市史を刊行した後も、市史を調査・研究する組織は必要と思う。
- ・資料のデジタルアーカイブ化をもっと進める必要がある。
- ・展覧会は、テーマを固定化せず開催できればよい。
- ・展覧会の準備期間が短く（1 年未満）、十分な調査・準備ができていない。
- ・博物館活動に関する講座（古文書講座など）で市民を育てたら、もっと繋がりを持ち、博物館活動にも参加してもらえと思う。
- ・博物館のユニバーサル化ができればよいと思う。